LUZ の熊野古道案内

2005 年 5 月―1

５月９日～２０日

je2luz.exblog.jp

目次

５月　９日　まず手始めに・・・地元紹介で熊野古道・松本峠です
５月１０日　熊野古道散策　１
５月１１日　熊野古道散策　２
５月１１日　熊野古道散策３－弱脚者の熊野古道・松本峠
５月１２日　熊野の古民家
５月１３日　旧奥川邸・・・旅の休憩所　**1**
５月１４日　旧奥川邸・・・旅の休憩所　**2**
５月１５日　熊野古道・・浜街道の始まり・・木本町１
５月１６日　熊野古道・・浜街道の始まり・・木本町２
５月１７日　熊野古道・・浜街道の始まり・・木本町 **3**
５月１８日　浜街道・・獅子岩
５月１９日　熊野の旅　浜街道・・・花の窟
５月２０日　古道のわき道　１　産田神社

2005 年 5 月 9 日に書き始めたブログの記事です。
まさかこんなに続くとも思わなかったのですが、もうすぐ 5 年になろうかと言う長さになりました。
随分、誤変換も多かったので WORD に取り込み、校正を試みました。
読む人も居ないかもしれませんが、PDF 化と印刷をしておきます。

2010 年 1 月着手

2005年 05月 09日

熊野の旅　まず手始めに・・・地元紹介で熊野古道・松本峠です

ここのブログに投稿するのは初めてです。どんな具合になるのやら・・・　銀塩写真を初めて半世紀になりますね。長いです・・・単に長いだけですがね。

映像もアップできるようなので少しずつアップして行きます。

本当のHPのようには行かないでしょうが・・・・

まず最初はご当地紹介と言うことで『熊野古道・松本峠』を一枚アップします。

一番簡単に行ける熊野古道です。

おいおい、当地熊野・南紀のことや写真のこと世の中のことを書いてゆきます。

IKOFLEX　2a　テッサー75mm3.5　T-MAX

by **je2luz** | 2005-05-09 13:07 | 熊野 |

2005年 05月 10日

熊野の旅　熊野古道散策　1

世界遺産に指定されて以来「熊野古道」という名前はすっかり有名になりました。

熊野古道といっても、天皇や上皇が熊野詣をされたのは和歌山県側の中辺路などです。京都から和歌山に出て南下してきました。地図だと奈良経由十津川越えもしくは吉野越えがほぼ直線ですがいかにも道が険しすぎますからね。

反対側の東側は伊勢に向かう街道になり、江戸時代になるとそちらから入る人も居たようですが、和歌や文献にはあまり出てこないようです。

このように熊野古道は非常に長いものです。朝日新聞社が主催で何回にも分けて歩くものがありましたが、熊野詣は山又山の険しい道を命懸けで来るからありがたかったのです。だから、熊野古道を踏破するというのは時間があり、かなりの健脚の方以外は無理になります。

そんな中で、実に簡単に石畳の古道に触れられ、熊野古道の中でも１・２を争う絶景を見られるのが熊野市の『松本峠』です。

下の写真は**『松本峠』**入り口です。

次回はここの案内をします。

2luz | 2005-05-10 12:01 | 熊野 |

2005 年 05 月 11 日

熊野の旅　熊野古道散策２

熊野古道の中で熊野市街のすぐそばから登っている道が『松本峠越え』です。

この道は新宮から続く緩やかな砂利浜『七里御浜』の端から始まるリアス式海岸の岬越え、最初のものです。これより伊勢までは険しい山道の連続です。荒波の磯伝いは歩けませんから、全て山を越えて道は続きます。

伊勢路から来た人が最後に越えるのがこの『松本峠』です。峠を下りながら見える景色は長い熊野古道の中で指折りのものです。

眼下に見える緩やかな海岸線とその先に見える熊野三山を抱える紀州の山並み…

極楽浄土への入り口です。
　この松本峠は熊野古道の中で一番簡単に歩ける道です。
　私はここを**『弱脚者の熊野古道』**と名付けました。そのわけはこの続きで…
　この一枚は松本峠の入り口付近です。
　IKOFLEX　2a　テッサー75mm3.5

by **je2luz** | 2005-05-11 04:16 | 熊野 |

2005年 05月 11日

熊野の旅　熊野古道散策３－弱脚者の熊野古道・松本峠

　昨日の続きですが、熊野市の中心、木本町のはずれから海水浴場のある大泊に越える峠道が『松本峠』です。低い尾根を越えるだけのものです。
　なぜ『弱脚者の…』と言うかと言うと、この峠自体が低いこと、更に市街地のはずれから始まる道だけに山道に入るところまで車が入ると言うことです。
　ほとんどの熊野古道は汽車で来たら、入り口まで随分遠いものです。しかし、ここは特急停車駅『熊野市駅』からハイキングで歩ける距離です。平地１Km弱で一般の上り口です。足の弱い方はタクシーでその上の入り口まで送ってもらっても駅から片

道１．５Km くらいです。更に良いことにこの車の終点からはすぐに緩やかな石畳の古道になります。

今日の写真は駐車場のところから古道を望むところです。

ここから峠まではさほど急ではない坂道が３００ｍくらいあるだけです。松葉杖でも充分登れます。車椅子は残念ながら一寸走れませんね。

頂上から右に折れて２００ｍくらいで東屋のある展望台に出ます。この道も尾根伝いでなだらかな道です。この展望台に出るとまさに絶景です。

眼下に熊野市街、その先は弓なりに２０Km 伸びる七里御浜と松林が見渡せます。その先には熊野三山を抱える紀伊山地がかすんで見えます。何処の展望台にも負けない景色です。飲み物でも持参してゆっくりされると良いでしょう。

帰りはそのまま引き返してもよし、足が達者なら反対側の大泊に下りても良いでしょう。

足の弱い方でもここのコースなら問題ありません。宅地造成された新興住宅地より楽でしょうね。ゆっくり歩いても往復 30 分でしょうね。展望台で休んでいる時に帰りのタクシーを頼めばよいでしょうね。

このコース、入り口に公衆トイレはありますが売店とかはありませんから、飲み物などは駅の近くのスーパーででも手配してからお出かけください。

次は、熊野の古民家を使った休憩所を取り上げます。

by **je2luz** | 2005-05-11 14:54 |

2005年 05月 12日

熊野の旅　熊野の古民家

熊野が歴史書に出てくるのは非常に古いです。

『古事記』にイザナギ・イザナミの二人の神が火の子を産んだ地がここ熊野の有馬だそうです。それについては後日紹介いたします。全部狭い範囲のかたまっていますので、無精者の私でも行ったことがあります。我が家から２Km以内に全部揃っていますから…

ここ熊野の木本と言う町はその昔、海賊の本拠地でその名も『鬼ノ元浦』と、呼ばれていました。

このあたりではすぐそばの南牟婁郡御浜町市木が元の『一鬼』で尾鷲市の『九鬼』まで順に揃っていたそうです。その大元締めがここ『キノモト』だそうです。

その割には小さな漁村だったようで、さほど古いものは残っていません。明治、大正、昭和と時代が新しくなると鉄路が大阪からここまで届き、終点になっていましたから尾鷲方面への連絡の『巡航船』を待ち合わせる宿場として、また紀州材の一つの集積場として繁栄する様になりました。そのころに一気に町も広くなったようです。江戸時代末期の地図と戦争当時とまるで町の範囲が違います。と、言っても狭い町ですがね。

戦災ではグラマンによる機銃掃射は受けましたが焼かれることなく残りました。おかげで明治から昭和にかけての建物は残されています。高度成長期には過疎が進みだし、再開発などと言う破壊からも救われました。おそらくこのまま歴史が止まったように残され、無人化した家が順に壊されるようになるのでしょうね。

少し長くなりますのでこの続きは明日と言うことにして…

この木本きっての旧家が解放されて古道散策の休憩所になっています。とりあえずその建物の外観を紹介いたします。建築は明治中頃とか言われています。

y **je2luz** | 2005-05-12 19:08 | 熊野

2005 年　05 月　13 日

熊野の旅　旧奥川邸・・・旅の休憩所　1

小さいながらも落ち着いたお庭のあるこの家は、木本きっての旧家『奥川』さんのものでした。今は熊野を離れ、住むこともなくなったと言うことで寄付されました。そこで、熊野古道が世界遺産に指定されたのを機に旅の休憩所として解放されるようになりました。

紀州桧で建てられたどっしりした建物です。築後１００年になっても当然の事としてびくともしません。お屋敷は平地の少ない南紀ではさほど大きなものはありません。このお屋敷も木本では最大級ですがよその町に比べると小さなものでしょうね。

この建物は『紀南ツアー・デザイン・センター』と言うもうひとつ似つかわしくない名前の団体が運営しています。正月を除き年中無休で旅人に休憩の場を開放しています。お座敷にも自由に上がれますから、縁側で手足を伸ばしてお休みください。

ちなみに、奥川と言う家は江戸時代の古地図にもきちんと苗字入りで載っているおうちです。

駅から熊野古道・松本峠に向かう途中にあります。駅から７００ｍくらいです。

次はこの休憩所の中を少し案内いたします。

トップの写真を木本町周辺の地図にしました。クリックで拡大できます。

by **je2luz** | 2005-05-13 14:22 | 熊野 |

2005 年 05 月 14 日

熊野の旅　旧奥川邸・・・旅の休憩所 2

この旅の休憩所は他の観光地の施設と少し趣が違います。

正月以外年中無休、無料です。

なにより嬉しいのは写真にある『おくどさん』で一日中お湯を沸かしていて、お茶を接待してくれることです。そのお茶も、紀州の番茶です。

そうです、茶粥を作るのと同じ番茶です。大層なお茶ではありませんが職員が『どうぞ…』と出してくれます。

民芸品などを少し並べていますが、『売店』というような商売目的でもありません。

裏庭の一角にはお湯を沸かす薪が積んであります。飾り物ではなく現役の薪です。かまどは昭和の物のようですがこれも現役です。

たいそれた、取って付けたようなイベントや飾りつけはありません。奥川さんが住んでいた当時もこうだっただろうと言う風にシンプルなままでお座敷を開放しています。求めなければついてまわっての説明もありません。気楽に手足を伸ばして疲れを癒せます。何より良いのは、よほどのことが無い限り来客が少ないのでくつろげると言うことです。

ただ、駐車場は普通車が 2・3 台止められるだけしかありません。

次はここ、木本町の町並みを少し紹介します。松本峠の行きかえりに通って見られますから・・・

イコフレックス　　テッサー75mm3.5

by **je2luz** | 2005-05-14 12:39 | 熊野

2005 年 05 月 15 日

熊野の旅　熊野古道・・浜街道の始まり・・木本町１

松本峠を下ったところが木本・鬼の元です。

ここには昔、鬼（海賊）が住んでいたそうです。そして坂上田村麻呂とやらに退治されたそうです。しかし、ここには田村麻呂とやら言う英雄の話はありません。鬼退治などと言う話は都人には面白いでしょうが、やっつけられた側になれば面白くないですからね。

木本の町は先に出てきた休憩所から峠の方向、川沿いだけでした。砂利の地面ですから水に恵まれないため山沿い、川沿いしか開けなかったようです。

戦前に鉄路がここまで敷かれ『紀伊木本駅』が終点でした。紀勢線の全通の時「熊野市駅」に変わってしまいました。

この「紀伊木本駅」から鬼ヶ城の東口までのわずか１Kmほどが県道木本停車場線です。県道では一番短い路線です。この県道が本町筋で江戸時代末期には地図にあります。これが浜街道・御浜街道の始まりです。

又、この鬼ヶ城東口から尾鷲まで巡航船が出ていました。国道が通じてからも昭和 35 年ごろまでは運行していたように記憶します。その船待ちなどで木本の町はにぎわったようです。

この本町には格子の入った日本古来の町屋が残っています。高度成長期には過疎が始まり開発などとは縁が無かったので結構残されています。古道散策のついでに歩かれると良いと思います。

次も、この木本についてもう少し案内します。

写真はパクシナ２９というカメラです。

by **je2luz** | 2005-05-15 05:17 | 熊野

2005 年 05 月 16 日

熊野の旅　熊野古道・・浜街道の始まり・・木本町２

木本町は古い町ですがものの６～７００ｍも歩くと町から出てしまいます。山と海との間の狭い平地一杯に家が立っています。

町は地図でお分かりのように単純な碁盤状です。海岸に 1970 年頃出来た国道 42 号線、その内側が本町筋・浜街道、その山側に路地と中の道、そして皇紀 2600 年に作られた記念通り商店街です。

格子戸のある町屋のある本町筋へは熊野市駅の正面から伸びる道路を海のほうに進めば国道のすぐ手前にある道ですから分かります。

左に曲がるとすぐに懐かしい赤い郵便ポストが立っていて、木の格子の入った町屋がぽつぽつとあります。道はすぐに左に曲がり三叉路になります。三叉路を右に曲がり銭湯の前を通って行くとあと５００ｍくらいは直線です。その筋には町屋があり、昔ながらのガラス戸の陶器屋さんもあります。

大正・昭和の町が残っています。

間口が狭く、奥行きが深く、暗くて住みにくい日本の町屋です。

カメラは同じブラウン・パクシナ 29 です。

次も、木本町についてもう少し御案内します。

by **je2luz** | 2005-05-16 14:01 | 熊野

2005 年 05 月 17 日

熊野の旅　熊野古道・・浜街道の始まり・・木本町 3

　木本町は鉄路の終点だったと書きましたが、戦前に始まった紀伊半島一周鉄道工事は西からは新宮経由で紀伊木本まで東からは尾鷲まで戦争までに出来ました。この木本尾鷲間はリアス式海岸を抜けるから、当時の常識を超えるトンネルを掘るかしかない難工事区間のため、遅れているうちに戦争になり中断してしまいました。

昭和 35 年ごろの紀勢線全通までの間は最初は巡航船で、国道が通じてからは国鉄バスで結ぶことになりました。

巡航船なら半日、バスでも途中８０８ｍの矢ノ川峠の難所があり、４２Km を 2 時間 40 分もかかりました。

このように不便な状態のほうが終着駅を持った町にはありがたいものなのです。開通してしまうまでは、十軒を越える旅館が営業していました。

写真の道路は皇紀 2600 年に完成した道路で両脇に歩道を持った物で、当時の田舎町には無い都市計画道路です。上水道も三重県下でトップを切って整備するなど木本町の勢いはものすごいものであったらしいです。

今でも、この『記念通り』はメインストリートですが商店の数は減り、通学生を除くと歩く人もまばらになってしまいました。

この写真は駅から５０ｍくらいの記念通り入り口の写真です。そして、正面に見えるのが『松本峠』です。標準レンズで撮ってもこの近さです。散歩程度の気軽さで行けるところです。

この通りにはスーパーや食堂も一応あります。名物のさんま寿司を売っている所もあります。

by **je2luz** | 2005-05-17 14:19 | 熊野

2005 年 05 月 18 日

熊野の旅　浜街道・・獅子岩

木本から井戸川と言う小さな川を越えると山が浜までせり出してきます。

最初の出っ張りが『獅子岩』です。

昔、この当たり一帯は海の底でした。何回かに分けて隆起してきたらしいのですが、この獅子岩ともうひとつの名勝『鬼ヶ城』は同じときに隆起したものらしいです。

この岩は木本側から見るとこんもりした木の生えた岩にしか見えませんが、花の窟側の展望台から見ると、神社にある狛犬のような形をしています。獅子が太平洋に向かって吼えているような形です。

初日の出の時はほぼ正面の海から朝日が昇ります。そして初夏から夏至にかけては、うんと東北にずれてくるので、朝日が獅子の口に入ります。この写真は５月７日くらいのものです。

この獅子岩は誰が記念写真を撮ってもきっちり「獅子岩」に写る写真向きのものです。標準レンズで撮るとこの大きさになります。

この獅子岩から日本最古の神社の『花の窟』までの間は、紀伊山地の一つの峰が海に入りこんでいます。今は獅子岩の尻尾を踏むような形で国道が通っていますが、固い岩盤の岩山なので昔は前の浜に降りて有馬、新宮方面に向かったようです。海が荒れた日は山越えをしなければならなかったようですが無理をして犠牲になった人も居たようです。越後の親知らずほどの難所ではありませんがね。

この獅子岩は井戸町大馬（おおま）にある『大馬神社』の狛犬だとも言われます。

獅子岩のそばには人面岩があり、これも花の窟側から見ると人の顔に見えます。獅子岩横の喫茶店の駐車場に車を止めて見ることが出来ます。

展望台の下はきれいな砂利浜ですから一休みするのも快適です。

木本の前から始まったこの砂利浜が『七里御浜』で新宮との境の熊野川河口まで２０Km ほど続きます。名前に偽り無く七里続く美しい海岸です。

しかし、三十年余り前の『熊野川総合開発』による数々のダムにより土石の流入が止まってしまい、近年は痩せる一方です。かつては１０ｃｍあまりのものから数ミリのものまで色んなサイズが帯状に波を打ちながら続いていたのですが、今は磨り減った小さな物だけになってきました。

地殻変動ではなく人間の罪でこの地が再び海に戻るのかもしれませんね。

獅子岩を過ぎると古事記に出て来る神話のふるさとです。

次はここを紹介します。『花の窟』

Voightlander VITO II Color Skopar　50mm3.5　　コニカシンビ２００

y **je2luz** | 2005-05-18 19:04

2005 年 05 月 19 日

熊野の旅　浜街道・・・花の窟

日本最古の神社と言われる**花の窟**はいささか難しい漢字を使うので、最近『花の岩屋』と易しい漢字で書く時もあります。イワヤをクツと読まれるより優しい漢字のほうがいいのかもしれませんが、長年親しんだ字で無いとピント来ませんね。

獅子岩から３００ｍほどで花の窟につきます。

日本最古の神社と言うからにはさぞかし立派な鳥居や社殿があるものと思われるでしょうが、大和朝廷に直接つながる神社でも無し、神代の頃のものですから、人間の世になるとしかと分からなくなったようです。天岩戸とちがい古事記に有馬と言う地名が記載されているのでここに間違いないだろうということです。

古代信仰の対象はは大きな岩であったり、滝であったり、山であったりします。恐ろしいほど巨大なものや美しいもの醜いもの・・・それらがご神体になるのは日本だけでなく世界中同じことですね、

この花の窟のご神体？は巨大な岩です。

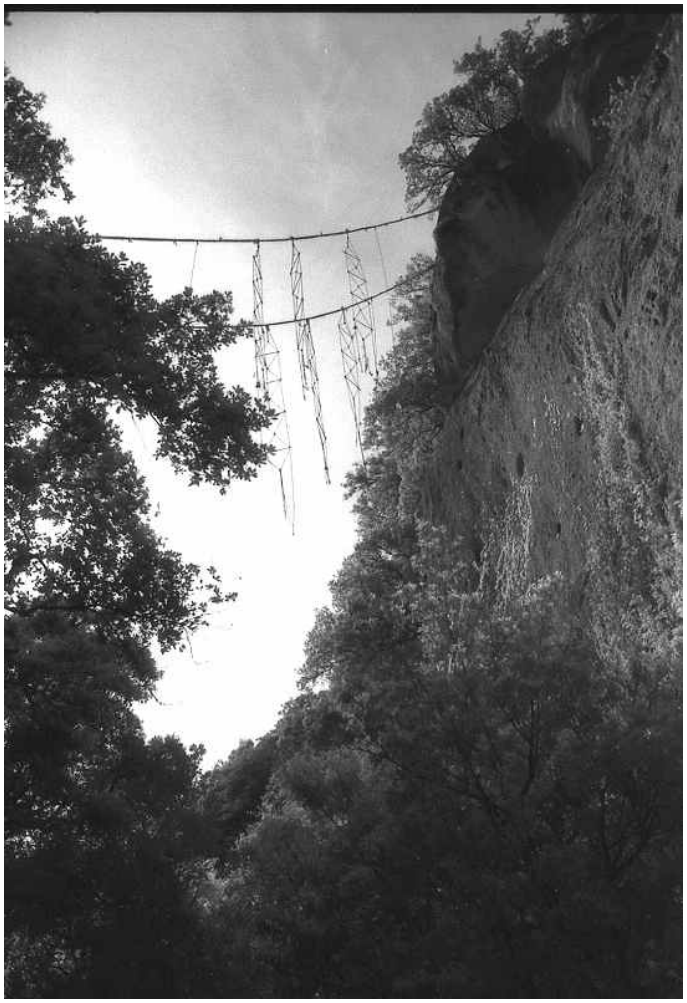
ここはイザナミとイザナギの間に火の神が生まれその火によって焼け死んだ母親を葬った場所と言われています。それもこの岩の上に葬ったとか言いますが、墓所としては似つかわしくないところです。上からの景色はまさに絶景ですが…

この神社には社殿はありません。小さな鳥居と無住の社務所があるだけです。鳥居の前には世界遺産指定以来休憩所が作られ、地元の人が接待しています。駐車場も最近拡充されてかなりの数が停められます。見学所要時間は 15 分くらいでしょう。

何も無い神社ですが、民間信仰としても信者さんは多いようです。春と秋には岩山の天辺から神社の入り口までのしめ縄を張り替える神事がありますが、バスを仕立てて参加される人も居るようです。

ここについての史実？いわれ等はたくさんの人がアップされていますから、素人の私は触れないでおきます。

次は浜街道から少し外れて、この火の神を生んだ場所『産田神社』を案内します。



by **je2luz** | 2005-05-19 16:23 | 熊野

2005 年 05 月 20 日

熊野の旅　古道のわき道１・・・産田神社

熊野古道の浜街道からほんの少し山寄りにに入ったところに**『産田神社』**があります。産田は「うぶた」でまさにお産そのものを表します。*イザナギ・イザナミ夫婦がここで火の神を生んだ*のだそうです。

火の神は何処の神話でも初期に生まれろ神ですね。ここ、熊野の有馬と言うところは日本の神話の初期の頃に既に登場する場所です。しかし、それ以降、全然出番がありません。この辺り一体は熊野灘が運んでくる砂利によって作られた七里御浜が河口をふさぐので海岸から一歩入ると沼地、湿地帯があります。古代人にとっては農耕にも適し温暖で住みよい場所だったでしょうね。暖かすぎてのんびりして…南方気質で向上心に欠け、歴史から取り残されたのかも…それに、いくら頑張っても絶対的に平地が不足して大量の食料の確保が出来ません。つまり、**『クニ』**を形成するには適さないと言うことです。

そうした背景で古代から今日に至るまで、熊野の地は発展には縁の無い場所なのでしょうね。

開けていないから神秘的…海路も怖い、陸路は難行苦行…信仰に対象にはうってつけですね。こうして、『蟻の熊野詣』といわれるほど参拝者が来た？らしいです。その割りに、街道筋も開けていませんね。もっとも、お伊勢さんのように街道筋も開けてしまってやじさんきたさんが物見遊山で歩いたのでは熊野三山参りの御利益はなくなるでしょうがね。

産田神社の横には小さな川が流れています。神田上水で産湯を使うとか。帝釈天で産湯を使うと言いますが、日本の火の神はここ**『産田川』**で産湯を使ったのでしょうか。

地元では*安産の神*としておまいりする人が多いです。

子供に焼き殺されたのだそうですか？？？

ここも、古代の神社なので残されているのは小さな神社です。見かけは普通の村の鎮守様と変わらないものです。ここも、無人ですからゆっくりと参拝して休めます。車も数台は入り口に置けます。

by **je2luz** | 2005-05-20 19:37 | 熊野